



ラグビーワールドカップ2019組織委員会 Newsletter

Vol.2 (2012年8月)

今号ではRWC2019に向けた試合会場決定に関する情報、および前号でお伝えしたRWC2015 試合会場視察同行の報告を掲載しております。

また、次ページ以降ではラグビーワールドカップの準備・運営組織のことやこれまでの歴史に簡単に触れたいと思います。ラグビーワールドカップについて、皆様によりご理解いただければ幸いです。

ご質問などございましたら、ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務局までお寄せください。

■RWC2019 試合会場決定プロセスについて

RWC2019 組織委員会では、5月の理事会でイングランドにてRWCが開催される2015年までに試合会場を決定する意向を固めました。最終的な試合会場決定スケジュールや決定方法については、RWCLとの話し合いを経て、今年中に決定することとなります。

それに先立ち、今年9月から全国数か所にて試合会場に関するワークショップの実施を計画しています。ワークショップでは試合会場立候補に関心のある自治体や関係者の皆様にご参加いただき、過去の大会での資料をもとに、これまでの大会で試合会場として必要だった条件の説明や意見交換などを行う予定です。詳しいスケジュールや内容は決定次第、皆様にご連絡いたします。

なお、試合開催を伴わない「キャンプ地」については、RWC2015終了後に条件などの詳細が決定する予定です。そのため、キャンプ地の決定は2015年大会以降となる予定です。

■RWC2015 (イングランド大会) の試合会場視察ツアー報告

England 2015

RWC2019 組織委員会では7月9日から3日間、イングランドにて行われたRWC2015 組織委員会 (ER2015) の2015年大会の試合会場視察にスタッフを派遣。RWCL、およびER2015が行う会場視察に同行しました。

ER2015では6月から約2か月間かけて試合会場の視察を行っており、今回、RWC2019 組織委員会はその一部に同行。今回の視察では2か所のスタジアムを訪問しました。

視察では、スタジアムからのプレゼンテーションをはじめ、グラウンド、メディア施設、放送施設、アンチドーピング施設、ホスピタリティ施設などを実際に見て回り、RWC2015を開催するために十分な施設が揃っているかの検証、および今後についてのミーティングなどが行われました。

スタジアム側が既存の施設を使用しながらいかにRWC2015開催条件に合致させるか、様々な創意工夫をしており、その点においてRWCL、およびER2015も積極的に話し合いに応じ、より良い計画を作っていこうとしていたことがとても印象的でした。

ER2015は試合会場視察と同時に、試合会場周辺の練習会場や交通、宿泊、プロモーション活動などについて開催会場都市との話し合いも進めています。

試合会場は2013年春ごろまでには決定される予定です。また、本年12月3日にはRWC2015プール戦組み合わせ抽選会がイングランド・ロンドンにて行われる予定です。

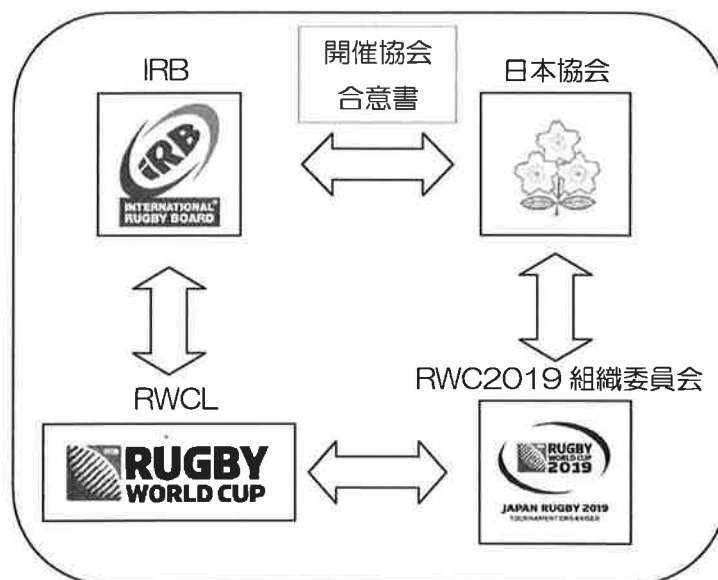
■ラグビーワールドカップ準備・運営組織について

ラグビーワールドカップは1987年にニュージーランド・オーストラリアで開催された第1回大会を皮切りに、4年ごとに開催されています。このラグビーワールドカップ（RWC）を主催しているのが国際ラグビーボード（IRB）です。IRBは世界のラグビーを統括する機関で、彼らは世界にラグビーを普及・発展させるために、様々な施策を行っています。その施策の主な資金となるものがRWCの収益です。その収益は各ユニオンに分配されたり、いろいろな国際大会を開催したりと、様々な形で活用されます。

IRBはRWCを運営する専門会社として出資100%の子会社「ラグビーワールドカップリミテッド」（RWCL）を設立。同社に準備・運営を委託しています。現在のRWCLの会長はIRBの会長であるベルナル・ラパセ氏が務めており、また、その他の理事もすべてIRBの理事から選ばれています。

日本ラグビーフットボール協会は2009年にRWC2019の日本開催が決定した際に、RWCLと開催合意書を結び、開催協会（ホストユニオン）となりました。

そして日本ラグビーフットボール協会は2010年11月、開催合意書に基づき大会の準備・運営を専門とする機関「ラグビーワールドカップ2019組織委員会」を立ち上げました。現在、組織委員会は一般財団法人として、開催合意書に細かく記載されている様々な内容に従い、大会に向けてRWCLと密接に連携しながら準備を進めています。



しかし、RWC開催に向けての活動は大会準備だけではありません。2019年に向けて国内ラグビーを普及発展させ、ラグビー人気を獲得し、さらにアジアにおいてもラグビーを普及発展させていくなど、様々なことを実行していかなければなりません。これらの点においては、日本ラグビーフットボール協会が中心になり三地域協会、都道府県協会、組織委員会、そしてアジアの各協会が一体となり、2019年大会が終わったあとも各地にRWCの「レガシー（遺産）」が残せるよう、活動を行っていくこととなります。

また、試合会場や練習会場を決定する過程、また大会の運営でも三地域協会、都道府県協会のサポートが不可欠となります。

■ラグビーワールドカップのこれまでの変遷

1987年に第1回RWCが開催されてから、回を重ねるごとにRWCは大きく成長し、現在ではオリンピック、FIFAワールドカップに次ぐ、「世界の三大スポーツイベント」のひとつとなりました。フランスで行われた第6回大会ではチケット販売枚数が史上最高の220万枚となりました。

2011年にニュージーランドにて行われた第7回大会では前回大会と比較して試合会場の規模が小さいことや、クライストチャーチ地震の影響によりチケット販売枚数は136万枚となりました。しかし、開催前9万5千人と見込んでいた海外からの観光客数が実際は世界100ヶ国以上から13万3千人訪れ、予測を大きく上回り、オーストラリアでは有料視聴者数が史上最高を記録するなど、RWCは益々世界的な成長を続けています。

		ホストユニオン	本戦出場 チーム数	予選参加 チーム数※	チケット販売数	TV放映 国と領域	TV 視聴者数
第1回	1987年	ニュージーランド・オーストラリア	16	-	60万枚	17	2億3千万人
第2回	1991年	イングランド	16	31	100万枚	94	14億人
第3回	1995年	南アフリカ	16	52	110万枚	113	23億人
第4回	1999年	ウェールズ	20	69	170万枚	209	31億人
第5回	2003年	オーストラリア	20	82	190万枚	194	34億人
第6回	2007年	フランス	20	94	220万枚	202	42億人
第7回	2011年	ニュージーランド	20	80	136万枚	207	39億人

※前大会で出場権を獲得したチームも含む。

お問い合わせ：一般財団法人 ラグビーワールドカップ2019組織委員会事務局
〒107-0061 東京都北青山2-2-5 ヴァレンナ北青山ビル3階
電話 03-5771-2019 FAX 03-5771-2018

TM (c) Rugby World Cup Limited 2008.

ラグビーワールドカップ (Rugby World Cup) 2019 概要



主 催

国際ラグビーボード (International Rugby Board)

開催予定時期

2019年9月～10月予定 (約6週間)

参加チーム

20チーム

試合形式

- ① 予選プール 5チーム×4プール(プール内総当たり戦) 40試合
 - ② 決勝トーナメント 準々決勝、準決勝、3位決定戦、決勝 8試合
- 総計 48試合

試合会場

日本全国10会場程度を予定

歴 史

1987年に第1回大会がニュージーランド、オーストラリア共催で行われ、その後、2011年のニュージーランド大会まで、7回開催される。

- ① 第1回 1987年 ニュージーランド・オーストラリア共催
- ② 第2回 1991年 英国(イングランド)
- ③ 第3回 1995年 南アフリカ
- ④ 第4回 1999年 英国(ウェールズ)
- ⑤ 第5回 2003年 オーストラリア
- ⑥ 第6回 2007年 フランス
- ⑦ 第7回 2011年 ニュージーランド
- ⑧ 第8回 2015年 イングランド開催
- ⑨ 第9回 2019年 日本開催

大会の特長

- ① アジアで初のワールドカップ
- ② ラグビー伝統国以外で初のワールドカップ
- ③ ラグビー(7人制)がオリンピック種目に採用されてから最初の大会

